

司能であるように各教師の特性を考慮し、じゅうぶん発揮できるよう配慮する。

③ 単位集団（学級）の再編成

教科の性質、また教材の内容に応じ、子どもの発達段階に即して、現在の既成学級をあわせ、あるいは分割するなど計画的・意図的に行なう。

特に本校は、1学級の構成児童が20人以下の学級が多いため、教科指導、生徒指導の本質的な活動の展開には、学級集団の再編成を必要とする場面が多い。

④ 協力体制による授業の展開

効果的な授業を展開し、教育機器の導入を可能にするため、TL、ST、(RT) といった役割で協力できるような体制を組織化する。その役割は固定化しないで、弾力的な役割交替で機能発揮を可能にする。

本年度は、研究第1年次のため、低・中学年団は体育の合併授業、高学年団は社会の複数授業とし、その教科の本質にせまるため、積極的に教師の意識の改善と組織化を進めてき

た。第2年次には、これを基盤として教科を増加し、小規模少人数学級校における、本質的な授業展開のあり方を学校経営の改善をとおして究明する。

(3) 学校経営組織改善の方向

学校経営の効果的・効率的な経営をめざして教授組織、事務組織、運営組織の一体化により、教育活動の集大成をはかる。

① 三層構造の機能化により、学校経営の一元化をはかる。

② 学年団の協力責任体制により、役割・分担意識を高める。

③ 小規模校教師の内的秩序の体系化により、各自特性の発揮につとめる。

④ 組織体としての協業・分業に充足感をもち、教育活動の集大成をはかる。

以上のような改善をめざした学校組織、ならびに経営を図示すると次のようである。

⑤ 学校組織および運営図

